



平成29年6月5日

九州地方整備局

九州管内におけるクルーズ船の動向について（確報）

2016年の九州管内におけるクルーズ船寄港回数について、平成29年3月6日に速報値を公表しておりましたが、確定値となりましたのでお知らせいたします。

九州地方整備局においては、2016年における九州管内各港（下関港含む）のクルーズ船寄港の動向を把握すべく、港湾管理者等への調査を実施しましたので、その結果（確定値）を公表いたします。

2016年の九州管内におけるクルーズ船寄港回数は、外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数が715回、日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数が99回となり、合計では**過去最高の814回（前年比238回増）**となりました。

注）平成29年3月6日公表の速報値から変更なし。

また、2016年の九州管内の港湾（下関港含む）及び空港からの外国人入国者数は、**過去最高の約381万人**となり、2016年の船舶観光上陸許可等によるクルーズ船からの外国人入国者数も、**過去最高の約142万人**となりました。

注）外国人入国者数は、法務省出入国管理等計を基に九州地方整備局が取り纏めたもので、平成29年3月6日公表の速報値から変更なし。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部
港湾物流企画室長 河野 正文（かわの まさふみ）
課長補佐 名里 健吾（なざと けんご）

TEL：092-418-3340（代表）

TEL：092-418-3379（直通） FAX：092-418-3037

●九州管内に寄港するクルーズ船の動向について

九州管内に寄港するクルーズ船の寄港回数は、東日本大震災（2011年）や日中関係の悪化（2013年）等により一時的に落ち込むものの、欧米のクルーズ船社や中国資本のクルーズ船社が中国発着のアジア配船を増やしていることから年々増加傾向にあり、**2016年は過去最高の814回を記録、全国の約4割を占め**（図表1）、また、**九州管内に寄港する外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数は、2016年は715回と過去最高を記録、全国の約5割を占めている**（図表2）。

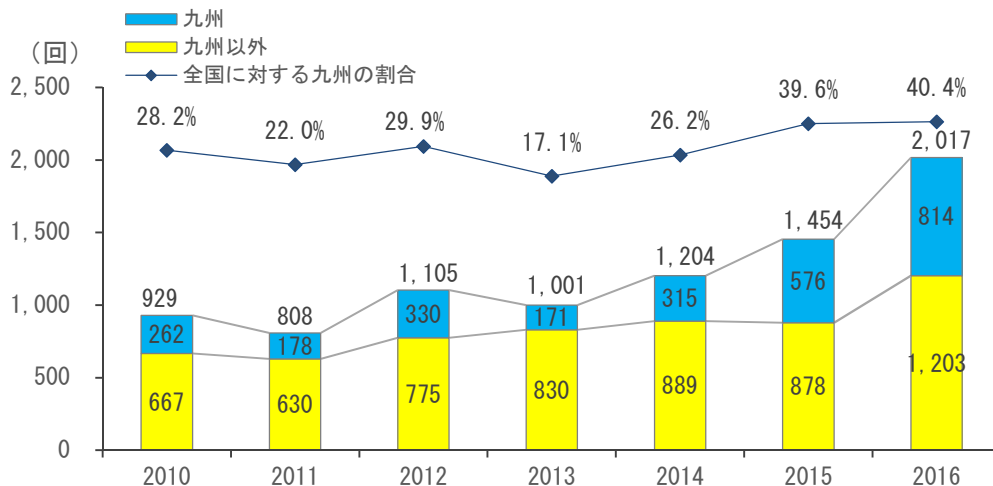
一方、九州管内におけるクルーズ船による外国人入国者数^{注1}は、ここ数年で急増しており、**2016年は約142万人と過去最高を記録、我が国へクルーズ船で入国した外国人旅行者数（訪日クルーズ旅客数）199.2万人^{注2}の約7割を占めている**（図表3）。

急増する中国発着のクルーズ船を背景に、九州管内の港湾がファーストポートとして利用される比率が高いことがうかがえる。

注1) 法務省出入国管理統計を基に九州地方整備局で整理した船舶観光上陸許可等数によるもの。1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、各港で重複して計上するのではなく、1人の入国者として計上している。

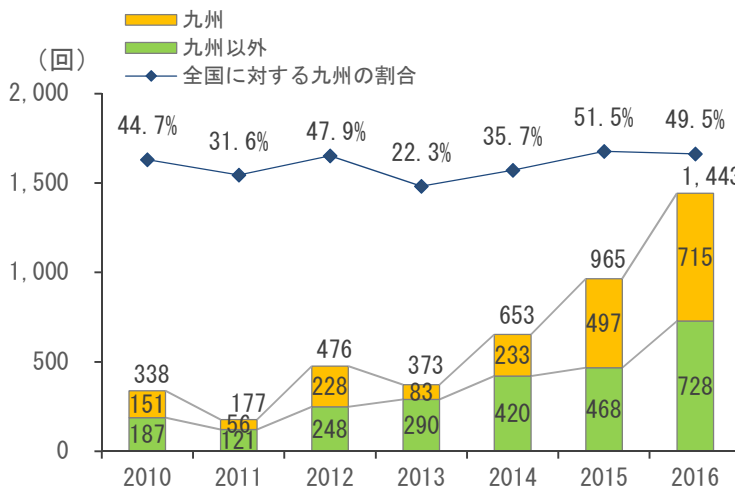
注2) 平成29年6月2日国土交通省港湾局の公表資料より。

図表1 2010～2016年 我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数



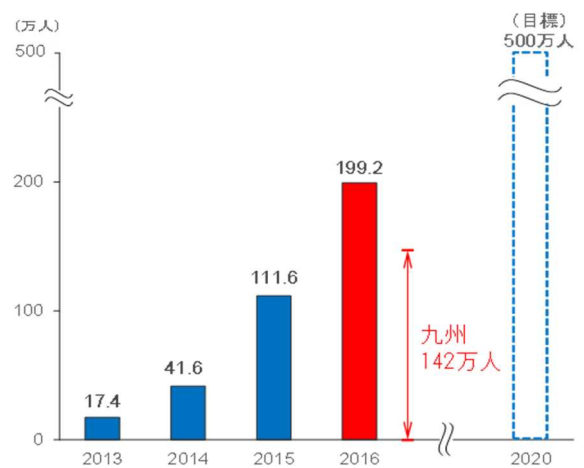
出典) 港湾管理者からの聞き取り及び平成29年6月2日国土交通省港湾局の公表資料を基に、九州地方整備局が作成。

図表2 2010～2016年 外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数



出典) 港湾管理者からの聞き取り及び平成29年6月2日国土交通省港湾局の公表資料を基に、九州地方整備局が作成。

図表3 クルーズ船による外国人入国者数（概数）



出典) 平成29年6月2日国土交通省港湾局の公表資料を基に、九州地方整備局が作成。

平成29年3月6日

九州地方整備局

九州管内におけるクルーズ船の動向について（速報値）

2016年の九州管内におけるクルーズ船寄港回数については、2015年（576回）を大幅に上回る過去最高の814回（前年比41.3%増）となりました。

また、クルーズ船による外国人入国者が急増しており、2016年には港湾からの外国人入国者が空港からの外国人入国者を上回る結果となりました。

九州地方整備局においては、2016年における九州管内各港（下関港含む）のクルーズ船寄港の動向を把握すべく、港湾管理者等への調査を実施しましたので、その結果を公表します。

2016年の九州管内におけるクルーズ船寄港回数については、外国船社が運航するクルーズ船の寄港が増加しており、これまでの過去最高であった2015年を大幅に超え、外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数が715回、日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数が99回となり、合わせて814回となりました。

また、法務省出入国管理統計の発表を受け、九州管内の港湾（下関港含む）及び空港からの外国人入国者数を取り纏めたところ、港湾からの外国人入国者が増加しており、2016年には港湾からの外国人入国者が空港からの外国人入国者を上回る結果となりました。また、船舶観光上陸許可等によるクルーズ船からの外国人入国者が急増しており、2016年は約142万人と過去最高を記録し、クルーズ船の寄港回数の増加とともに今後も増えていくものと推測されます。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部
港湾物流企画室長 河野 正文（かわの まさふみ）
課長補佐 名里 健吾（なざと けんご）

TEL：092-418-3340（代表）

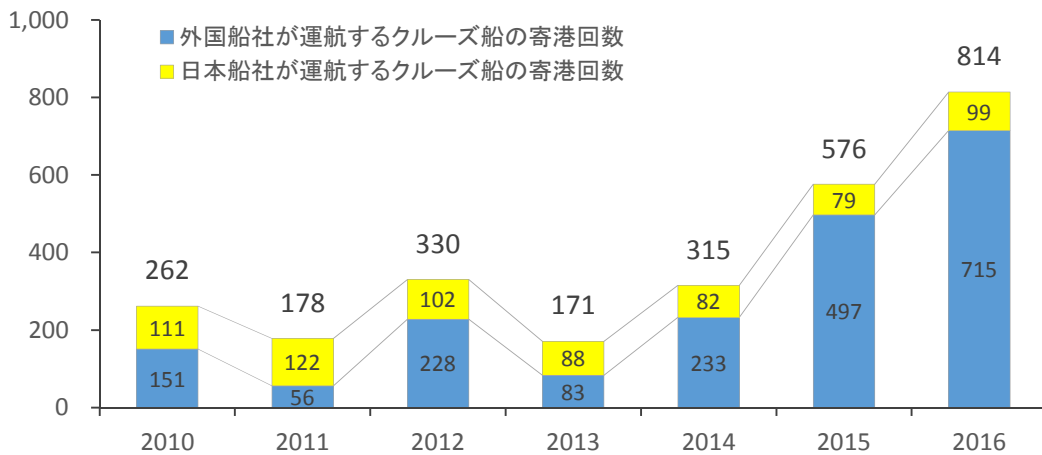
TEL：092-418-3379（直通） FAX：092-418-3037

1. 九州管内に寄港するクルーズ船の動向について

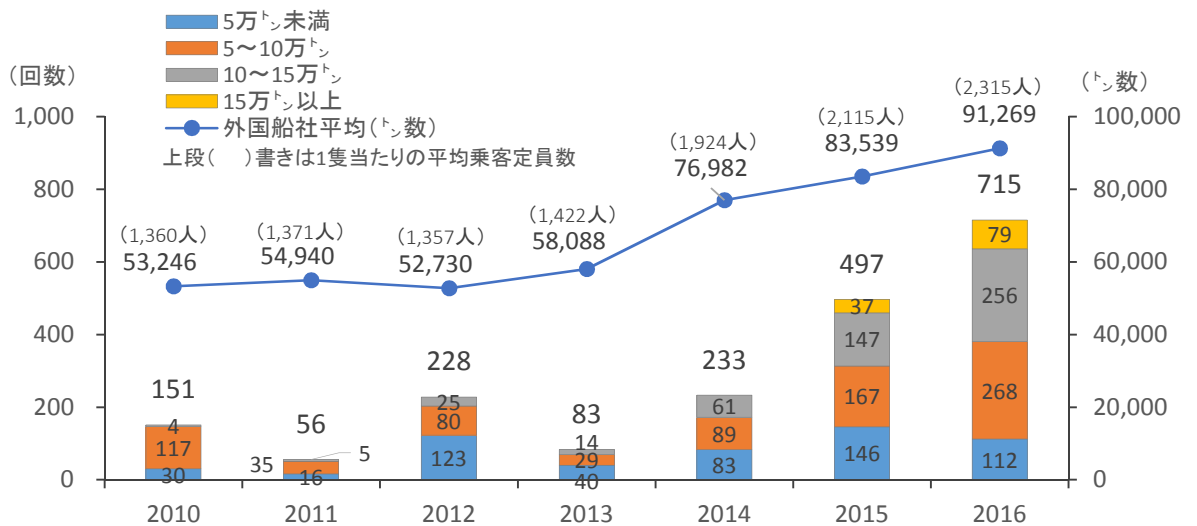
九州管内に寄港するクルーズ船の寄港回数は、東日本大震災（2011年）や日中関係の悪化（2013年）等より一時的に落ち込むものの、欧米のクルーズ船社や中国資本のクルーズ船社が中国発着のアジア配船を増やしていることから年々増加傾向にあり、**2016年は過去最多となる814回（速報値）**を記録している。（図表1）なお、全国トップ10に九州管内の港湾が4港入り、1位博多、2位長崎、8位鹿児島、9位佐世保と、地理的にアジアに近い九州管内の港湾が上位を占めている。

また、外国船社が中国を中心に東アジアに大型クルーズ船を配船しており、九州管内に寄港した外国船社クルーズ船の平均トン数は6年前に比べ約1.7倍の約9万トとなり、大型化の傾向が顕著である。更にクルーズ船の平均乗客定員数も増加しており、6年前に比べ約1.7倍の約2,300人/隻となっている。（図表2）

図表1 九州管内へのクルーズ船の寄港回数



図表2 九州管内への外国船社クルーズ船の寄港回数と大型化傾向



2016年九州地方整備局管内におけるクルーズ船の寄港回数

都道府県	(港湾名)	外国船社	日本船社	総計	都道府県	(港湾名)	外国船社	日本船社	総計
山口県	下関	14	3	17	大分県	本渡	0	2	2
福岡県	北九州	5	4	9	中津	0	0	1	1
	博多	312	16	328	別府	14	5	19	
佐賀県	唐津	0	2	2	宮崎県	細島	4	3	7
	呼子	0	1	1	宮崎	0	1	1	
長崎県	佐世保	62	2	64	油津	17	5	22	
	長崎	190	7	197	鹿児島県	鹿児島	80	3	83
	福江	0	3	3	西之表	0	5	5	
	青方	0	6	6	宮之浦	4	14	18	
	島原	0	1	1	指宿	0	1	1	
	三浦湾(対馬)	0	1	1	湾	0	1	1	
	玉ノ浦	0	1	1	名瀬	3	3	6	
熊本県	熊本	0	2	2	古仁屋漁港(奄美)	0	2	2	
	八代	10	2	12	与論	0	1	1	
	三角	0	1	1	合計		715	99	814

出典：港湾管理者からの聞き取りに基づき九州地方整備局で作成。2016年の値は速報値であり、今後、変動する可能性がある。

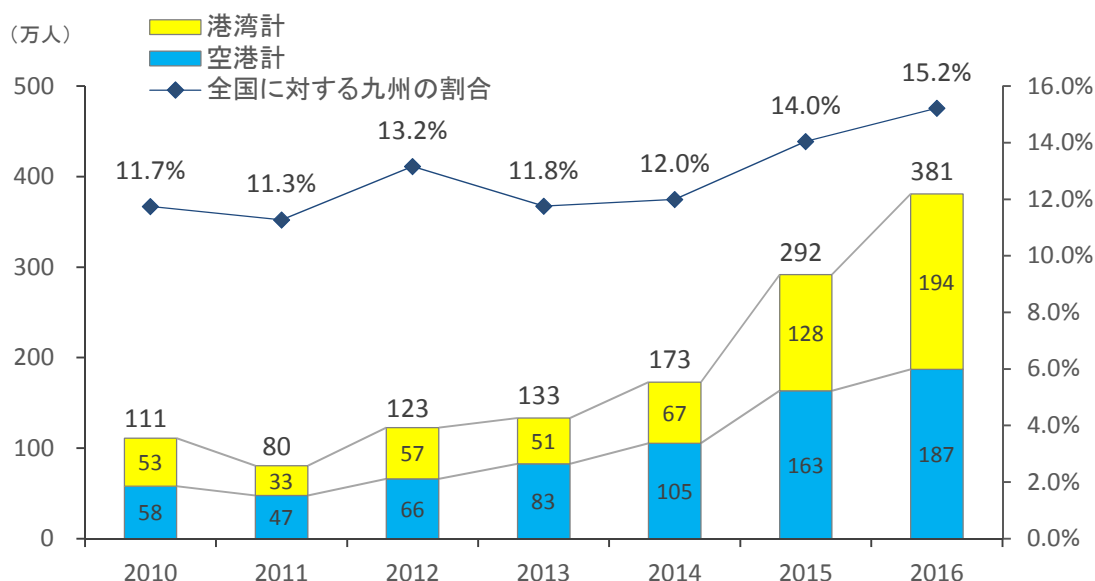
2. 九州管内への外国人入国者数の動向について

九州管内の港湾及び空港からの外国人入国者数は、東日本大震災の影響で一時落ち込むものの年々増加傾向にあり、2016年は過去最高となる約381万人となっている。また、港湾からの外国人入国者が急増しており、2016年には港湾からの外国人入国者が空港からの外国人入国者を上回る結果となった。なお、全国に対する九州管内からの外国人入国者の割合も増加しており、2016年は約15%となっている。(図表3)

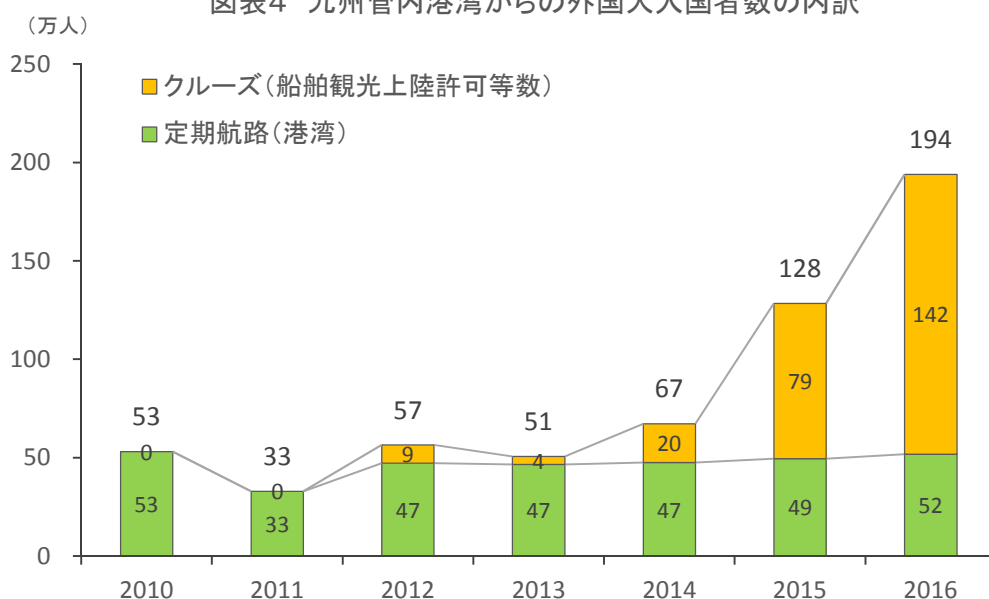
また、九州管内の港湾からの外国人入国者数(約194万人)の内訳を見ると、フェリーや高速船の定期航路からの入国者数はここ数年、ほぼ横ばいとなっているが、船舶観光上陸許可等によるクルーズ船からの外国人入国者が急増しており、2016年は約142万人と過去最高を記録し、我が国へクルーズ船で入国した外国人旅行者(訪日クルーズ旅客数)199.2万人^注の約7割を占めている。(図表4)

注) 平成29年1月17日国土交通省港湾局の公表資料より

図表3 九州管内の港湾・空港からの外国人入国者数



図表4 九州管内港湾からの外国人入国者数の内訳



出典：財務省出入国管理統計を基に九州地方整備局で作成。なお、九州管内の港湾とは、下関港を含む港湾である。